

1 現状の課題と政策の方向

関東管内の野生鳥獣による農作物被害額は年々減少傾向にあるものの、農業現場では、営農意欲の減退をもたらす耕作放棄や離農の要因になるなど、農業従事者や捕獲従事者の高齢化が進む中、農山村に深刻な影響を及ぼしている。

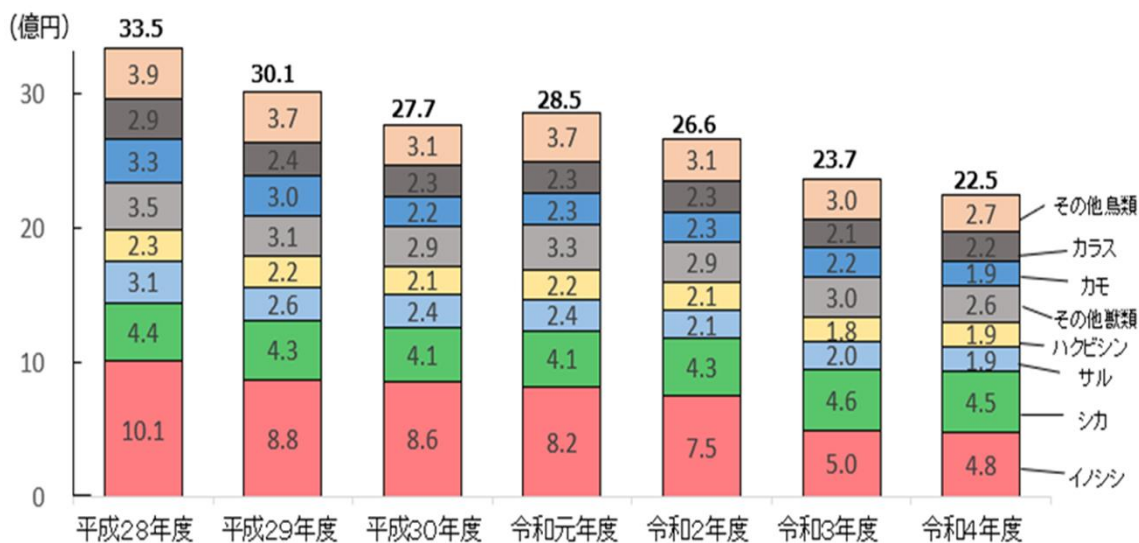
関東管内では、住民参加による地域ぐるみの鳥獣対策など効果を上げている取組の横展開を通じて効果的な被害防止対策の普及を図るとともに、広域的で効率的・効果的な取組を支援している。また、捕獲された鳥獣を地域資源（ジビエ等）として利活用することにより農村の所得向上につなげる取組を推進している。

2 関東管内の取組状況

(1) 鳥獣被害対策等の推進

関東管内における令和4（2022）年度の野生鳥獣による農作物被害額は、約22.5億円で前年度に比べ1.2億円(5.0%)減少している。鳥獣種類別ではイノシシ、シカ等の獣類による被害が約7割、カラス、カモ等の鳥類被害が約3割を占めている。

【図表2-1-1】 野生鳥獣による農作物被害額の推移（関東管内）



資料：関東農政局調べ

\* 全国の野生鳥獣による農作物被害状況についての詳しい内容については、こちらをご覧ください。

[https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/hogai\\_zyoukyou/index.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/hogai_zyoukyou/index.html)

(農林水産省)



## (2) ジビエ利活用の拡大

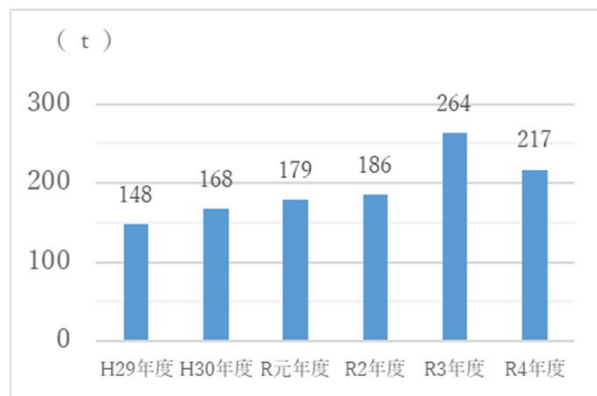
### 【コラム】 捕獲鳥獣のジビエ利用拡大に向けた取組

令和4(2022)年度の関東管内のジビエ利用量は217 tであり、平成30(2018)年度の約1.3倍となった。

関東管内では、安全で良質なジビエの提供を実現するため、捕獲から搬送・処理加工、販売がしっかりとつながったモデル地区として、長野市において処理加工施設の整備を行い、令和元(2019)年度から稼働を開始している。

また、農林水産省では、ジビエの食肉処理施設の自主的な衛生管理を推進するとともに、より安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保を図るため、「国産ジビエ認証制度」を制定している。関東管内では、「信州富士見高原ファーム(長野県富士見町)」、「長野市ジビエ加工センター(長野県長野市)」、「伊豆市食肉加工センター(イズシカ問屋)(静岡県伊豆市)」、「丹波山村ジビエ肉処理加工施設(山梨県丹波山村)」、「朝霧高原ジビエ(静岡県富士宮市)」、「オーガニックブリッジ(千葉県木更津市)」、「ジビエ工房茂原(千葉県茂原市)」、「湘南じびえ河津ファクトリー(静岡県河津町)」の8施設が認証されている。

捕獲鳥獣のジビエ利用量の推移【関東管内】



資料：野生鳥獣資源利用実態調査

長野市ジビエ加工センター【モデル地区】



\* 捕獲鳥獣のジビエ利用を巡る最近の状況の詳しい内容は、こちらをご覧ください。  
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/suishin.html> (農林水産省)



農林水産省では、鳥獣被害防止や捕獲した鳥獣の食肉（ジビエ）の利活用等に取り組み、地域に貢献している個人及び団体を対象に「鳥獣対策優良活動表彰」を実施している。令和5（2023）年度には、関東管内で1個人が受賞した。

### 【表彰】農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（個人））滝口 雅博 氏（山梨県）

ハンター歴50年の獣類捕獲・解体技術を生かし、平成21（2009）年度に「富士河口湖町ジビエ食肉加工施設」の施設長に就任するとともに、町内猟友会に迅速な個体搬入と繊細な前処理を求めるなど徹底した指導により、高品質なシカ肉を提供。

猟友会員への放血処理指導



普及活動（修学旅行生への講義）



#### ○ 主な取組

町内7地区の猟友会と連携し、迅速な搬入が可能な体制を整備。また、高品質なジビエ提供に欠かせない搬入前の血抜き処理について、猟友会会員への指導などにより丁寧かつ繊細な前処理が行われたシカの搬入を実現。また、会員への捕獲方法の指導により狩猟技術の向上が図られ、捕獲頭数の増加に貢献。

滝口氏が施設長を務める加工施設では、平成29（2017）年10月に「やまなしジビエ食肉処理認定施設」の指定を受けており、野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針（ガイドライン）及び山梨県のシカ肉の衛生及び品質の確保に関するガイドライン遵守のほか、独自の取組として、搬入時のシカの体温計測を実施。これにより捕獲から止め刺し、搬入までの時間を推定することで、品質が著しく低下した個体の判別が可能となり、当該施設におけるジビエ加工品の品質向上を図っている。

他の処理加工施設の職員や、新たに加工を始めたい未経験者などに対しても、町内外を問わず丁寧な指導を行うとともに、やまなしジビエ認定施設へのシカ搬入数の増加を目的とした狩猟者向けDVDを作成し、普及啓発活動を実施している。

#### ○ 取組の成果

【シカの捕獲頭数（うち加工施設処理数）（富士河口湖町）】

110頭（34頭）（活動開始時：平成21（2009）年度）

→500頭（214頭）（令和4（2022）年度）